

政策立案の方法

1. 図書館経営論

(1) 図書館経営論の展開

アメリカにおける図書館経営論

- ・ 1887年 デューイが“School of Library Economy”を開設
- ・ 1943年 “library economy”の定義(A L A図書館用語集)
- ・ 1950年代以降 コンピュータによる効率化へ関心が集まる
- ・ 1980年代の問題意識

日本における図書館経営論

- ・ 1892(明25)西村竹問『図書館管理法』
- ・ 1900(明33)文部省(田中稲城編)『図書館管理法』
- ・ 1912(明45)文部省『図書館管理法』改訂版
- ・ 1915(大4)日本図書館協会(和田萬吉他)『図書館小識』
- ・ 1918(大7)和田萬吉『図書館学大綱』

(2) 今なぜ、経営論か

戦後の図書館経営論

図書館や情報センターの経営管理にあまり関心が払われなかった主な理由

- ・ 図書館の経営については、理論よりも経験が重視された。
- ・ 経営管理の専門家は非営利で公共的な性格の機関よりも営利機関に関心を集中する傾向があった。
- ・ 図書館員や図書館・情報学の研究者は経営管理よりも本や書誌や情報検索に関心を向ける性癖がある。
- ・ 営利分野での利益概念に相当する図書館や情報センター活動の有効性を示す確立した尺度がない。
- ・ 図書館や情報センターの活動は一般にある大きな組織や社会での主要な活動を支える脇役となる特性を持ち続けてきた。
- ・ 従来の図書館や情報センター等の活動はその職員に経営管理的な判断や意思決定をほとんど求めないでやってこられた。

(高山正也『図書館・情報センターの経営』勁草書房1994 p.6、高山正也『図書館概

論』(講座 図書館の理論と実際)雄山閣 1992 p.87,88、バックランド,M.K 著 高山訳『図書館・情報サービスの理論』勁草書房 1990 p.8)

図書館経営を取り巻く環境の大きな変化

- ・ 図書館の電子化、電子出版、インターネット利用の急速な進展
- ・ 図書館予算の縮小、経営財源の多様化(PFIなど)
- ・ 職員体制の多様化
- ・ 外部委託やアウトソーシングの拡大
- ・ など

2. 図書館の経営管理

(1) 図書館経営とは

「図書館経営とは、図書館の作業をその作業を通じて、図書館の使命・目的を効率的かつ円滑に達成し、それにより経営要素の更なる確保を可能ならしめて、次なる作業のよりよい実現に向かうサイクルを実現することにある。」(高山正也 2002 p.5)

「図書館経営活動の基本的枠組みは、図書館経営方針の設定を受けた管理活動のもとで、作業が実行されることにある。すなわち、方針 管理 作業の階層をもつことになる。」(同 p.6)

(2) 経営職能

「経営職能である組織の方針設定とは、組織の目的や理念を明確にし、これを実現するための方策としての政策や戦略を決めて、組織をそれに向けて動かすことにある。」(同 p.6)

(3) 経営管理職能

「経営管理職能とは、計画を作って目標を示し、組織化し、調整し、動機付けをして作業を実行させ、その成果と目標値との差異を是正するという統制を通じて新たな計画を設定する一連の活動である。この活動は循環するのでマネジメント・サイクルといわれるが、通常は簡略化し、計画(plan) 実行(do) 評価(see) 新計画(action)の各段階からなると表現する。」(同 p.6)

< 図書館の経営 >

経営（方針の設定）	：目的・理念・政策戦略の決定
管理（経営管理職能）	：組織・計画・調整・動機付け・統制
作業	：図書館の個別業務

3. 政策立案

(1) 経営方針：図書館の使命・目的

図書館が設置されている地域社会やそこに住む人々に対して、図書館がどんな役割をもつのか、どういう働きをなすべきなのかを明らかにし、明文化する。

(2) 経営方針と政策

経営方針である「使命・目的」を具体化するための方針・方策

目標を設定して戦略をたて、有効性が問われる

具体的には、法律や条例、基本方針（要綱）地方自治法に基づく総合計画など

(3) 政策と計画

政策を具体化するために計画を策定する。

計画は、目標とスケジュール及び財源見通しが伴う。効率性が問われる。

計画の階層（目標の階層）

総合計画（基本構想 基本計画 実施計画）

総合計画には含まれないが、図書館独自の運営計画やサービス計画など

政策評価軸のヒエラルキー

区 分		評 価 軸	説 明
経営政策	理念	使命(Mission)	どのような価値観に基づき、どのような方向へ
	政策	目標(Objectives) 戦略(Strategies)	有効性(Effectiveness) Outcome 誰のために、何を目標として、どのような施策の組み合わせで
経営管理	計画	戦術(Tactics)	効率性(Efficiency) Output 最適資源を組み合わせ、どれくらい多く、良いものを
	実行	遂行(Execution) 管理(Control)	経済性(Economy) Input どれくらい少ないコストで

中川幾郎「図書館と指定管理者制度を考える」『みんなの図書館』2006.5

4. 私の図書館の「使命」をつくろう

- 日本博物館協会の『使命・計画作成の手引き』を参考にして

(1) 使命書をつくることの意義

社会の理解を得られる

図書館活動の拠り所となる

図書館を評価するための指標が得やすい

(2) 手順

自館の現状を把握しよう

・館の活動や運営に関わる資料や文書を集める

・「望ましい基準」を使って自己点検する

・自館の強みと弱みを分析する

自館を取り巻く状況を知ろう

・設置者が求めていること

・地域社会における役割

・利用者のニーズ

図書館界を取り巻く状況を知ろう

・図書館界の現状

・国や自治体の政策や意向

・社会的要請

たたき台をつくる

・強みと弱みを整理する

・チャンスとピンチを見極める

・キーワードやキャッチフレーズを出し合う

意見交換をする

仕上げる

5. 宿題

手順の から までを自分の館で次回までにやってくる。

職員に協力してもらって、ワークショップ方式で

<参考文献>

・高山正也編『図書館・情報センターの経営』勁草書房 1994 (図書館・情報学シリーズ 4)

・高山正也編著『図書館経営論』改訂版 樹村房 2002 (新・図書館学シリーズ 2)

・『使命・計画作成の手引き』日本博物館協会 2004 (博物館の望ましい姿シリーズ 1)

・中川幾郎「図書館と指定管理者制度を考える」『みんなの図書館』2006.5, p.3-10